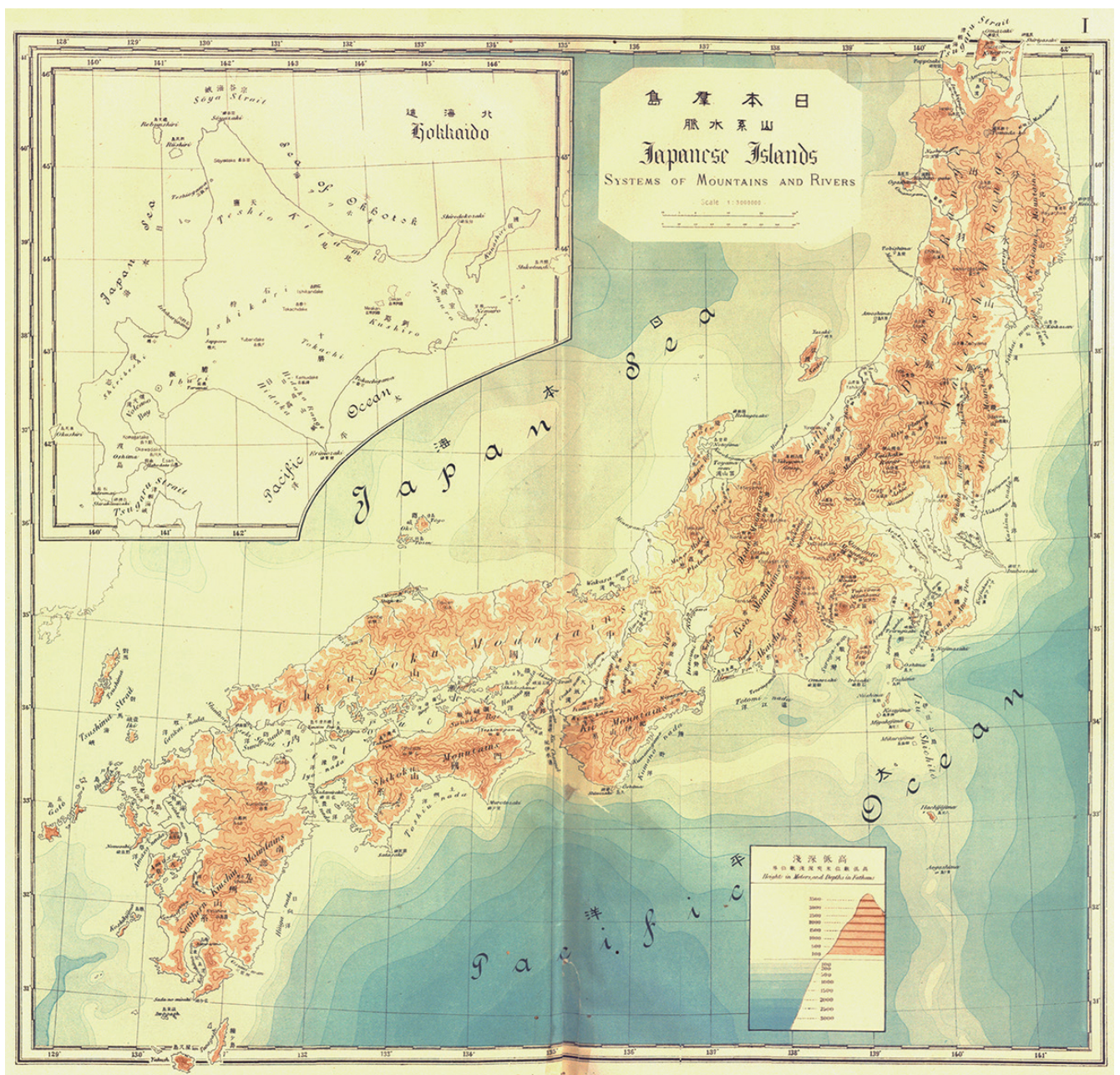


日本初の全国地形図 (1): 原田豊吉の「日本群島 山系・水脈」

<山田直利¹⁾・菅原義明²⁾>

ここに示したのは、1889年(明治22年)に農商務省地質局から刊行された「大日本帝国地産要覧図」(M. フェスカ編; 全23葉)の第I図「日本群島 山系・水脈」である。本図は等高線の入った全国地形図としては本邦最初の出版物である。作者名は表記されていないが、本図集の説明書である「日本地産論, 通編」(フェスカ, 1891, 農商務省地質調査所)には本図が原田豊吉の編集によるものであると記されている。原図の縮尺は300万分の1。等高線間隔は500mで、補助的に標高100mの等高線が加えられている。標高100m以上の丘陵・山地は淡い褐色に塗られ、また高位の等高線ほど太い線で描かれているので、日本の主要な山脈が濃く浮かび上がって見える。地形図が未完であった北海道を含めて、山地・水系・海域に詳しく名称(和・英)が付けられている。1882年に創立された地質調査所(1885年~1890年は地質局)では地質調査のために40万分の1「大日本帝国予察地形図」(全5葉)が順次出版中であった。本図はこれらのデータを基につくられたのであろう。本図の出版は参謀本部陸地測量部による200万分の1「大日本輿地図」(1926)よりも30年以上早く、内容的にもそれに比べて遜色がない。産総研地質調査情報センター地質・衛星情報アーカイブ室の収蔵品から複製。約2分の1に縮小。



1) 元 地質調査所員
2) 産総研 地質調査情報センター

YAMADA Naotoshi and SUGAWARA Yoshiaki (2013) A review of the first topographic map of Japan (1). "Japanese Islands: Systems of mountains and rivers" by T. Harada (1889).